

令和6年度 なでしこグループ 放課後児童クラブ 自己評価

学校法人 撫子学童クラブそら・ほし 滝沢中央学童保育クラブ第一
 社会福祉法人 室小路学童クラブうみ・やま 滝沢中央学童保育クラブ第二

1, 「令和6年度の目標（内容）」についての取り組みについて

なでしこグループ 放課後児童クラブ 令和6年度の目標（内容）	反省・意見
<p>▼ 支援員の連携・協力体制</p> <p>①グループの支援員の協力体制の強化</p> <p>②支援員同士の意見交換の場、交流、研修、レクリエーションの充実</p> <p>③グループの学童の児童の交流</p>	<p>①グループの支援員の協力体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学童会議や日々のミーティングを通じて、支援員同士の連携は比較的スムーズに行われた。 ● 退職などの職員の増減があると、協力体制の強化よりも運営の安定を優先する必要がある、当初の目標を達成しにくかった。 ● 保育中の情報共有はこまめに行っていたが、長期休みの際は保護者への申し送りが不足することがあった。 ● 怪我や小さな出来事の報告を確実に伝えるため、さらに情報共有を強化したい。 <p>②支援員同士の意見交換の場、交流、研修、レクリエーションの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 研修を通じて保育スキルの向上とグループの学童との交流ができた。今後も研修には積極的に参加し、意見交換を深めたい。 ● 各施設の予定を合わせることが難しく、支援員同士の交流の機会が少なかった。年間予定に組み込むことで改善できる可能性がある。 ● 交流するメリットを感じにくく、今後の取り組みの工夫が必要である。 ● SNSを活用して支援員同士が意見交換し、困った際に解決策を共有できた。 <p>③グループの学童の児童の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 夏祭りを合同で行い、児童同士の交流を深める機会となったが、企画・準備の打ち合わせ時間が不足し、勤務時間外のやり取りが発生した。 ● 児童の交流は大人数での実施が難しく、学年を分ける、体育館を借りるなどの工夫が必要であった。 ● 支援員の人数が少なく、安全面への不安ある為、今後は細かい打ち合わせや工夫を検討したい。 ● 合同行事を通して支援員・子どもたちの交流が生まれたが、初めての試みだったため、改善点が見つかった。 ● 他の学童の雰囲気や子どもたちの様子を知る機会となり、交流の重要性を感じる意見もあった。
<p>▼ 保育内容の充実</p>	<p>1 児童の育ちや年齢に応じた保育内容、援助の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年齢に応じた声かけや指導、個別支援を必要とする児童への対応に力を入れたが、大変さを感じる一年であった。 ● 高学年が優先される場面が多く、低学年の遊びや活動への配慮が今後の課題として挙げられた。

	<p>①児童の育ちや年齢に応じた保育内容、援助の工夫</p> <p>②季節の行事やレクリエーション等、児童が様々な経験ができるような保育の計画</p> <p>③小学校との連携(情報共有会・授業参観・行事への参加等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生特有の甘えや気持ちに寄り添いながら、「静と動」のバランスを考えた言葉かけを意識した。 ・宿題の援助においては、児童の年齢に応じたヒントの出し方を工夫し、できるだけ自分で考える機会を増やした。 ・個別支援が必要な児童が多く、支援の工夫を行ったものの、職員の人数が少ない日は十分な援助が難しい場面もあった。 ・異年齢の児童が集まる環境の中で、それぞれに適した対応が求められ、対応の難しさを感じたが、学びとして活かしていきたいとの意見もあった。 <p>②季節の行事やレクリエーション等、児童が様々な経験ができるような保育の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恒例行事を行いながらも、新しい体験ができるような行事を企画し、子どもたちが楽しめる工夫をした。 ・夏祭りでは、高学年が焼きそば作りやお店の店員として参加し、「提供する側も楽しい」という気づきを得ることができたため、今後もこのような活動を増やしたいという意見があった。 ・施設内だけでなく、施設外での活動も積極的に取り入れ、子どもたちに様々な経験をさせることができた。 ・子どもたちの意見を尊重しながら保育を行い、月ごとの季節行事を企画・実施することができた。 ・長期休みの期間には、子どもたち自身が行事の企画をする機会を設け、主体的に楽しめるようなレクリエーションが行われた。 ・制作やレクリエーションを通じて、様々な季節の行事や体験を提供できた。 <p>③小学校との連携(情報共有会・授業参観・行事への参加等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、小学校との連携を強化し、学校行事の参加が増えたことで、児童の様子をより深く知る機会となった。 ・学校との面談は春に実施されたが、学期ごとに実施することでよりスムーズな連携が図れるとの意見があった。 ・普通学級から支援学級へ変更となる児童が増え、学校との情報共有の重要性を改めて感じた。 ・授業参観に伺う機会が増え、学校での子どもたちの様子を知ることができた点は良かったが、授業参観とは別に授業の様子を見学できる日が数回あるとより良い。 ・小学校との情報交換があまりできていなかったため、今後は支援員側から積極的に連絡を取り、情報共有の場を設けたい。 ・以前と比べると小学校との情報共有が進んでおり、子どもたちの頑張っている姿を見る機会も増えた。
<p>▼研修等を通してスキルアップ</p>		<p>①積極的に外部研修に参加し、個々の支援員のスキルアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修を通じて、配慮が必要な児童への対応や声掛けについて学ぶ機会があった。 ・今年度は外部研修の参加が少なかったため、次年度は障がい児支援などの研修に参加したい。

	<p>①積極的に外部研修に参加し、個々の支援員のスキルアップ</p> <p>②配慮が必要な児童の情報共有、協力体制</p> <p>③クラブ内でのマニュアル見直し等の研修の充実</p> <p>④業務内容・業務分担の見直し、効率化を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育園を通じて研修を受ける機会があり、学びにつながった。 ● 園内研修には参加しているが、外部研修の情報が少なく、参加機会を増やしたい。 ● 支援員研修に参加したことで、学んだ内容を業務に活かすことができた。 <p>②配慮が必要な児童の情報共有、協力体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 配慮が必要な児童については、常に記録を残し、支援員同士で共有している。 ● ミーティングや会議を通じて、児童への関わり方の共通理解を図るよう努めた。 ● 一人ひとりの意見を募りながら、支援の統一化が進んでいると感じる。一方で、全ての支援員が配慮が必要な児童や保護者への対応ができるとは限らないという課題も挙げられた。 ● 必要に応じて学校とも情報共有を行い、適切な対応が取れるよう努めた。 <p>③クラブ内でのマニュアル見直し等の研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ミーティングや業務の振り返りを行うことで、業務の効率化や共通理解を深める取り組みが見られた。 ● クラブ内の業務分担や役割については、定期的に話し合い、適切な方法を模索している。 <p>④業務内容・業務分担の見直し、効率化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 割り振られた業務を適切に遂行したが、支援員によって業務の負担に偏りがあるため、業務分担の見直しが必要と感じる。 ● 少ない職員数の中で業務を行うため、業務を分担することが難しい場面もあった。 ● 業務分担を円滑にするため、掃除や遊びの見守りをルーレット方式で回し、偏りが出ないように工夫している。 ● それぞれの支援員が業務の全体を把握し、誰が休んでも代わりに対応できるような体制づくりが必要である。
--	--	--

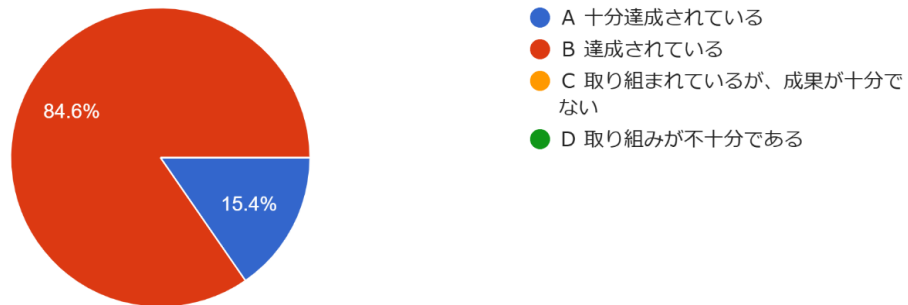
1, 放課後児童クラブの取り組みについての評価（自己反省も踏まえて） 回答… 13名

- A…十分達成されている
- B…達成されている
- C…取り組まれているが、成果が十分でない
- D…取り組みが不十分である

評価の項目

評価項目の取り組みについての意見

1. 育成支援の基本 放課後児童クラブ運営方針...放課後児童支援員の役割・社会的責任の理解と実践
13件の回答

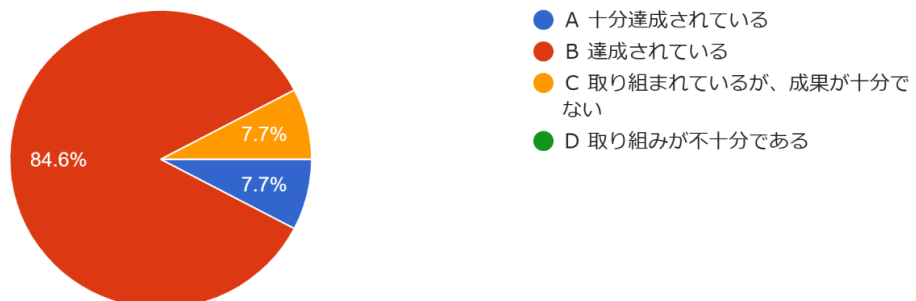


放課後の居場所として適切な場所を提供できるよう、机や椅子などの施設設備を整えた。

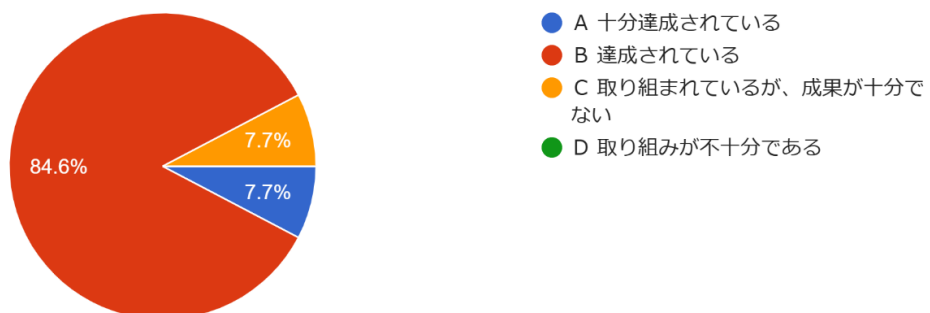
一人一人差別したりすることなく、どの子どもでも同じ対応をすることを意識した。常に異年齢交流ができる場であるため、先輩としての言い方や姿、後輩としての先輩達との接し方など、大切に伝えてきた。

放課後児童支援員として、子どもたちが安心して過ごせる生活の場であるように、環境設定や遊びの提供ができた。子ども同士の関わりも大切にした。

2-1. 子どもの発達・理解 ・発達の特徴や発...程の理解と実践 ・育成支援についての理解と実践
13件の回答

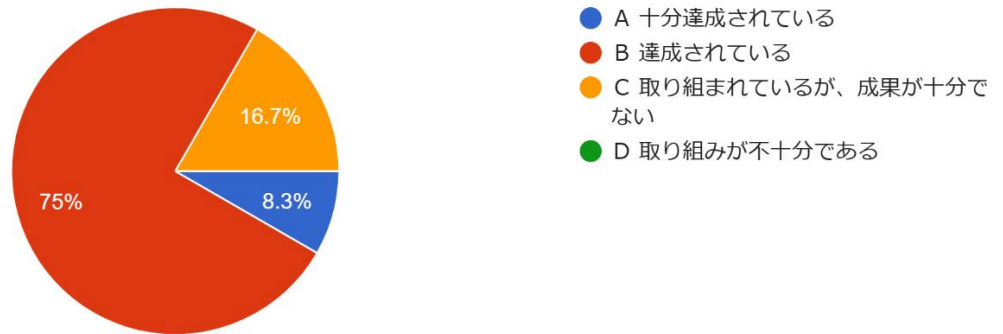


2-2. 子どもの発達・理解 ・危機管理 ・保健衛生管理 ・防災及び防犯対策について
13件の回答



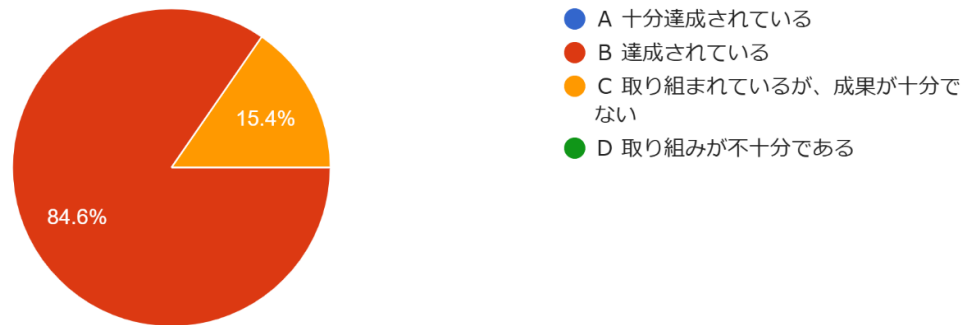
2-3. 子どもの発達・援助 配慮が必要な児童への対応について

12件の回答



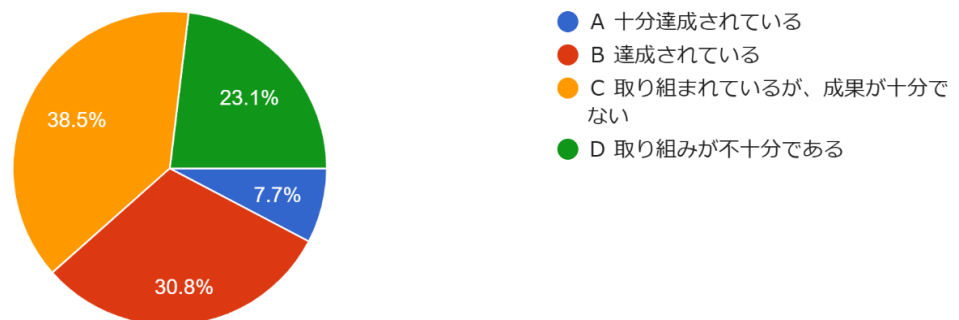
2-4. 子どもの発達・援助 ・小学校との連携 ・保育園、幼稚園等との連携について

13件の回答



2-5. 子どもの発達・援助 地域組織との連携・取り組みについて

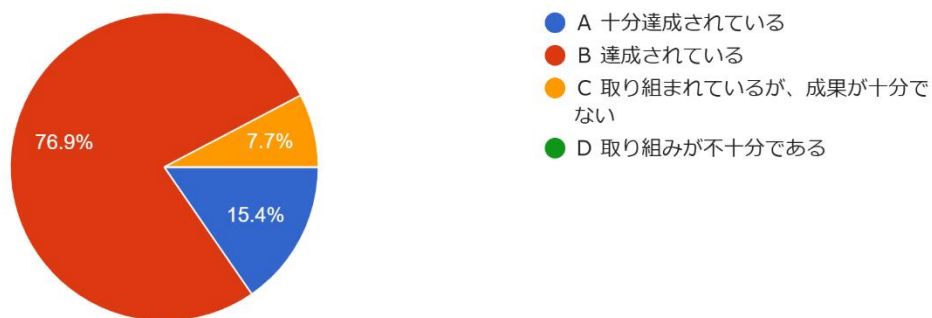
13件の回答



- ・来年度から、配慮が必要な児童が増える為、対応の仕方や声掛けの研修などがあれば参加したいです。
- ・支援が必要な児童に対しての環境を整えたい。
- ・今まで地域と交流する機会が少なかったので、地域の方をお招きしての行事などを考えていきたい。
- ・避難訓練を通して防災、防犯対策することができた。個別配慮が必要な子どもへの関わり方が難しいと思うが普段から信頼関係を築きながら、少しずつ対応できたら良い。小学校との連携も以前よりとれた。
- ・学校の授業参観に参加し、学校の様子から学童での違いなど知ることができ、より子どもたちについての理解が深まり、適切な援助等ができると思う。

3. 保護者に対する支援 保護者・地域への対応

13件の回答



- ・子どもの学童での様子など伝え方や言葉遣いに気をつけながら対応できた。その時解決出来ない内容は上司に相談し誤解がないようにした。
- ・学習面や生活面での相談など保護者からあるので、支援員で情報を共有してその都度保護者に子どもの様子など伝えるようにしている。
- ・Instagramを開設してから、ステージ発表をする児童の保護者に、「投稿を見てほしい」と保護者との会話が増えコミュニケーションをとる機会が増えてきた。

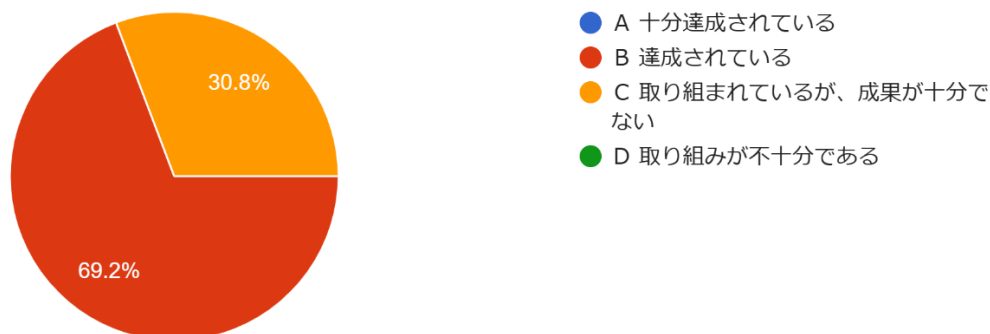
4-1. 運営に関わる組織的基盤 研修への取り組み

13件の回答



4-2. 保育を支える組織的基盤 施設整備・管理／職員処遇／出納管理

13件の回答



運営に関わる組織的基盤

・ 配慮が必要な児童への対応力向上

支援が必要な児童への対応に不安を感じるため、実践を通じた学びだけでなく、研修の機会を増やしてほしい。自身の経験不足を補うためにも積極的に学び、より適切な支援ができるよう努力していきたい。

・ 学童と園の連携強化

保護者が学童を単独施設と認識しており、園とのつながりを感じにくい。園の職員が学童に関わる機会を増やし、保護者に対しても連携の様子を可視化することで、園と学童の一体感を強めたい。

・ 子どもたちのリーダーシップ育成

進級する子どもたちにリーダーシップを育み、成長の機会を提供したい。また、一人ひとりの性格や特性に合わせた支援ができるよう自己研鑽に努め、個々の成長を促す環境づくりをしていきたい。

・ 業務改善と情報共有の強化

新事業の導入に伴い、業務の効率化や支援員間の役割分担を見直したい。業務の偏りをなくし、不要な業務を削減するためにも、年度初めに話し合いの場を設け、職員間で意見交換を行いたい。

・ 多様な体験を通じた学びの提供

学童では子どもたちにさまざまな経験を提供し、そこから学びを得られる環境を整えたい。また、一人ひとりが抱えている問題を適切に分析し、状況に応じた支援を行えるよう努めていく。

・ 職員間の連携強化

業務上直接関わる機会が少ない職員とも、情報共有や連携を意識し、協力しながらより良い学童環境を作っていきたい。職員同士が互いに支え合い、業務の質を向上させることを目指したい。

・ 静動の活動の分離と環境整備

支援が必要な児童が増えてきたため、静かな活動と動的な活動を分け、落ち着いて過ごせる環境を整えるべきである。少人数で過ごせる小空間を設け、児童が安心できる居場所を提供したい。

・ 支援員の働きやすい環境づくり

支援員のスキルアップの機会を増やし、業務の負担を分散させることで、より働きやすい職場環境を作りたい。職員一人ひとりが成長しながら、長く安心して働ける環境を整備していきたい。

・ 異年齢交流の推進

保育園の未満児や以上児との交流を積極的に行い、子どもたちの成長につなげたい。異年齢の関わりを通して、協調性や思いやりの心を育み、より豊かな経験を提供できるようにしたい。

・ 子どもの自主性を育む活動

工作やクッキングなど、主体的に取り組む機会を増やすことで、意欲や創造力を伸ばし、学びの幅を広げていきたい。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心できる学童環境の整備 学童には家庭環境が複雑な子どもや、友人関係・学習面で悩む子どもが多く通っている。職員同士で情報を共有し、一人ひとりに寄り添った支援を行い、安心して通える場所を作っていきたい。 ・ トラブル対応力の向上 トラブル発生時に中立の立場で話を聞き、適切にアドバイスできる力をつけたい。過去に主観的な判断で仲裁し、問題解決がうまくいかなかった経験を踏まえ、公平な視点を持てるよう努める。 ・ 新1年生のスムーズな適応支援 新1年生が環境に慣れるまでしっかりサポートし、在籍児童には先輩としての自覚を持たせるよう働きかけたい。学童の児童発達状況を園とも共有し、双方が子どもたちを理解しやすい体制を築く。 ・ すべての子どもに寄り添う支援 支援が必要な子どもだけでなく、一見問題がないように見える子どもにも積極的に関わりたい。そのためには職員が子どもたちを丁寧に観察し、一人ひとりの状況に応じた適切な支援を行うことが重要である。

3、なでしこグループ 放課後児童クラブ 令和7年度の目標（内容）

※次年度への意見等を参考に立案

1. 支援が必要な児童への対応力向上と研修機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配慮が必要な児童との関わり方を学ぶ機会を増やし、実践だけでなく研修も積極的に活用する。 ・ 支援員が対応に不安を感じる場面を減らすため、スキルアップ研修を定期的実施する。 ・ 職員同士で情報共有を行い、支援の統一化を図る。
2. 学童と園の連携強化と地域交流の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学童の運営が園と連携していることを保護者に伝えるため、園の先生が学童に関わる機会を増やす。 ・ 園児との交流を活発にし、異年齢間の関わりを大切にする。 ・ 学童の児童の発達や様子を園とも共有し、相互理解を深める。
3. 子どもが安心して過ごせる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭環境や友人関係に悩む子どもが安心できるよう、職員がよく観察し、適切な支援を行う。 ・ 静動の活動を分離し、少人数で過ごせる小空間をつくるなど、環境の工夫を行う。 ・ 子どもたちが主体的に楽しめる活動（工作・クッキングなど）を充実させる。